

統計の眼

果実消費量の動向

日本の果実消費量は、一九六〇年は三、二九六千トン(一人当たり二二・四kg)であったが、二〇〇〇年には八、六九一千トン(同四一・五kg)となり四〇年間で二・六倍に増大した。しかし、輸入果実・果汁が増大する一方で、国産果実はみかんを中心に減少しており、二〇〇〇年では消費量の五六%が輸入果実になっている。

品目別にみると、みかんの消費量は八〇年には二、八〇三千トンあり果実消費量全体の三七%を占めていたが、オレンジ輸入自由化、果実消費の多様化等により二〇〇〇年にはみかんは一、二二二千トン(一四%)に減少している。りんごの消費量は着実に伸びてきたが、これは輸入(主に果汁)の増大のためであり、国産りんごはやや減少している。

その他の果実(国産品)は、六〇年には、かき(三五四千トン)、なし(二七七千トン)、なつみかん(一九六千トン)、もも(一九五千トン)、ぶどう(一六九千トン)の五品目でその他果実の九割近くを占めていた。その後、温州みかんの転換等によりはっさく、いよかん等の柑橘類が伸び、八〇年頃までは、なつみかん、ぶどう、なし、ももも増大していたが、八〇年以降は輸入果実に押されいずれも減少傾向にある。

輸入果実の動向をみると、バナナの輸

入量は一時停滞していたが、九〇年以降再び増大して二〇〇〇年には一、〇七九千トン(果実輸入の二二%)に達している。そのほか輸入量が多い生鮮果実は、グレープフルーツ(二七二千トン)、オレンジ(一三六千トン)、パイナップル(一〇〇千トン)、レモン(九二千トン)である(二〇〇〇年)。また、近年はオレンジジュース、ぶどうジュース、グレープフルーツジュースや、もも缶詰、柑橘類缶詰の輸入増大が著しい。

なお、果実的野菜については、すいかの消費量が減少する一方で、メロン、いちごの消費量が増大してきたが、九〇年以降は、メロン、いちごも減少傾向にある。

(清水徹朗)

果実消費量の推移

(単位：千トン)

年	1960	1980	1990	2000
みかん	933	2,803	1,617	1,212
(うち輸入)	(0)	(0)	(0)	(3)
りんご	892	985	1,261	1,346
(うち輸入)	(0)	(28)	(273)	(551)
その他果実	1,471	3,847	4,885	6,133
(うち輸入)	(118)	(1,511)	(2,705)	(4,289)
果実計	3,296	7,635	7,763	8,691
(うち輸入)	(118)	(1,539)	(2,978)	(4,843)
果実的野菜	868	1,468	1,441	1,178
(うち輸入)	(0)	(0)	(50)	(74)

資料：農水省「食料需給表」

(注)「果実的野菜」とは、いちご、すいか、メロン